

札幌・アウラ建築設計事務所

環境生かした設計 公園を借景に取り入れる

住宅の設計・監理までかわった個人住宅を昨年、札幌市豊平区に完成させた。

施主K氏は40代で、奥さま、高校生と小学生の娘さんの4人家族。3軒目となる家づくりは、「これで最後」と構想段階から



藻岩山を眺める窓を配した外観

階からじっくり3年かけた。土地選びは、周辺環境や地盤の強さ、眺望などにこだわったため難航した。またフリーリングの合う建築家もなかなか見つからず、一時は大手ハウスメーカーでの家づくりも考えたという。



リビングから藻岩山を眺める小窓が見える

その頃、友人を介してアウラ建築設計事務所の山下さんと知り合った。K氏は山下さんの建築や仕事に対する姿勢に共感し、土地選びも含めて山下さんに仕事を依頼した。

と眺望の点から、公園に隣接する南西の角地を提案した。建物は在来木造で、ガレージも含めた延床面積は約76坪と大きく、土地選びも含めて山下さんに仕事を依頼した。

建物には道路境界近くまで引き寄せてL字型に配置し壁のように見立てた。山手氏は、環境の良さ

た。西方向に藻岩山が眺望できることから、2階にハイサイドライトと西の角に小窓を連続的に配置し、中からの眺望の確保と外から建物を見た時の圧迫感を柔らげた。また、建物に囲まれた内側が中庭のようになり、南東隣にある公園の緑を借景とすることでさらに広がりのある庭に見える。

間取りでは、「家の中心」を定めてそこからの動線や眺めなどを重視。たとえば2階は奥さまがいる時間の長いキッチンを中心に据え、そこからリビング・ダイニングをのぞくように配置し、部屋の気配もわかるプラン

ニングに。藻岩山も西角の窓から見える。

K氏から「小さな障害をあえて設けることで日常生活で足腰が弱らないような設計に」という希望に対しては、スキップフロアを採用して応えた。1階は客間と主寝室、2階にリビング、上2階にダイニングキッチンと水まわり、少し下がった中2階は高さ1・4m以下の「蔵」スペースとして活用。

性能面では、長期優良住宅の認定を取得済み。山下さんは、「建物と道路境界線の間は開かれたスペースとして花を植え、背後にある子ども部屋の気配もわかるプラン

た。西方向に藻岩山が眺望できることから、2階にハイサイドライトと西の角に小窓を連続的に配置し、中からの眺望の確保と外から建物を見た時の圧迫感を柔らげた。また、建物に囲まれた内側が中庭のようになり、南東隣にある公園の緑を借景とすることでさらに広がりのある庭に見える。

間取りでは、「家の中心」を定めてそこからの動線や眺めなどを重視。たとえば2階は奥さまがいる時間の長いキッチンを中心に据え、そこからリビング・ダイニングをのぞくように配置し、部屋の気配もわかるプラン

ニングに。藻岩山も西角の窓から見える。

K氏から「小さな障害をあえて設けることで日常生活で足腰が弱らないような設計に」という希望に対しては、スキップフロアを採用して応えた。1階は客間と主寝室、2階にリビング、上2階にダイニングキッチンと水まわり、少し下がった中2階は高さ1・4m以下の「蔵」スペースとして活用。

性能面では、長期優良住宅の認定を取得済み。山下さんは、「建物と道路境界線の間は開かれたスペースとして花を植え、背後にある子ども部屋の気配もわかるプラン

た。西方向に藻岩山が眺望できることから、2階にハイサイドライトと西の角に小窓を連続的に配置し、中からの眺望の確保と外から建物を見た時の圧迫感を柔らげた。また、建物に囲まれた内側が中庭のようになり、南東隣にある公園の緑を借景とすることでさらに広がりのある庭に見える。

信州の魅力ある移住戦略

長野県原村は、八ヶ岳の西麓に広がる高原(標高900m~1300m)に位置する。夏の涼しさや、村独自の「環境保全条例」などにより自然や景観が保全されていること、日本初のペンション村(約70軒)があり、信州に憧れる全国各地の人々からもよく知られていること、JR新宿駅から特急で2時間半で

「移住」事業は地元工務店にとっては受注のチャンスでもある。北海道は移住の候補地として人気のエリアで、多くの市町村が過疎対策・地域活性化の一環で移住戦略に力を入れている。しかし首都圏や関西圏の人にとっては、ほかにも有力な候補地があるようだ。今回は北海道を飛び出し、「長野県原村の移住ツアー」から移住ニーズの実態を探ってみた。(シリーズ15回)

自然文化園の自然科学観察館に到着。オリエンテーションが始まった。ツアーに参加したのは、横浜、神戸、埼玉、滋賀、大阪、愛知、静岡、東京からの9組の移

住希望者。参加者は「原村で、都会に疲れた人が休めるペンションを始めたい」「子育ても終わりで自然の中で暮らしたい」「東京暮らしが長持ちが強くなくなった」「老後、身体が自然を求めて人ホームで一生涯を終えたい」

のではなく田舎暮らしを満喫したい。故郷はもう集落に人が居なくなったので移住地を探している。「八ヶ岳近隣は旅

行や登山で馴染みのある地。首都圏からも近く、妻も移住に積極的」といった抱負を発表。

次いで役場の担当者が「夏は避暑地として最適で、冬は屋根の雪下ろしは不要。中心部に公共施設や店舗が揃い、その一方でグリーンリゾートゾーンには豊かな景観と自然が保たれている。高齢者の就業率が全国有数、児童とお年寄りの医療費実質無料。約70軒のペンションオーナーのほとんどが先輩移住者。地元有志の田舎暮らし案内人もいて移住へのサポート体制も揃っています」とアピールした。

初日はその他に体験メニューなどを行い、ペンションに宿泊。ペンションオーナーによるおもて

興味深かったのはむしろ2日目。この日は4社の地元不動産会社による物件紹介が行われた。1社目は標高の高いペンション村付近の森でプレゼン。住宅の建設には合併浄化槽が必要、地下水脈が高く基礎の防水対策などが必要なので地元工務店の経験を頼りにした方がよいとアドバイスした。

2社目は若干標高の下がった閑静なエリアを案内。不動産会社の担当者説明は要約するところだ。「遺跡も多く出る縄文

ニーズ ウオッチング Vol.15 工務店と役場の連携



寒冷地対策や地元の条例などをよく理解している地元企業を選ぶべきとPR

「遺跡も多く出る縄文

遺跡が出て住宅建設に支障があるかもしれないという言い方ではなく、そのことを土地の魅力、移住の目的と絡めながら地域文化の視点から説明。この説明にツアー参加者の多くが心を動かされていった。

役場の担当者がツアー企画・宣伝・運営を実施。ペンションオーナーが移住体験と信州の魅力

を語る、地元ボランティアが子育て環境や冬の生活、地域性、人付き合いのポイントなど、移住希望者が抱えている不安点に答える。そして不動産会社が移住者の心をよく理解し、ニーズに合う物件を魅力的なトークでPRするというように、役割分担がしっかりと実践されていた。

野鳥が飛来する池が隣接する林の中の住宅など、移住者が思わず興奮する物件も



野鳥が飛来する池が隣接する林の中の住宅など、移住者が思わず興奮する物件も